

2 苦情の処理に要した期間別典型7公害の直接処理件数

- 典型7公害の直接処理件数のうち、約7割は「1週間以内」に処理
 - ✓ 「1週間以内」に直接処理した割合を公害の種類別にみると、「大気汚染」は高いが、「騒音」「振動」では低い
 - ✓ 「1か月超」の処理件数は、10年間で「騒音」「振動」が増加

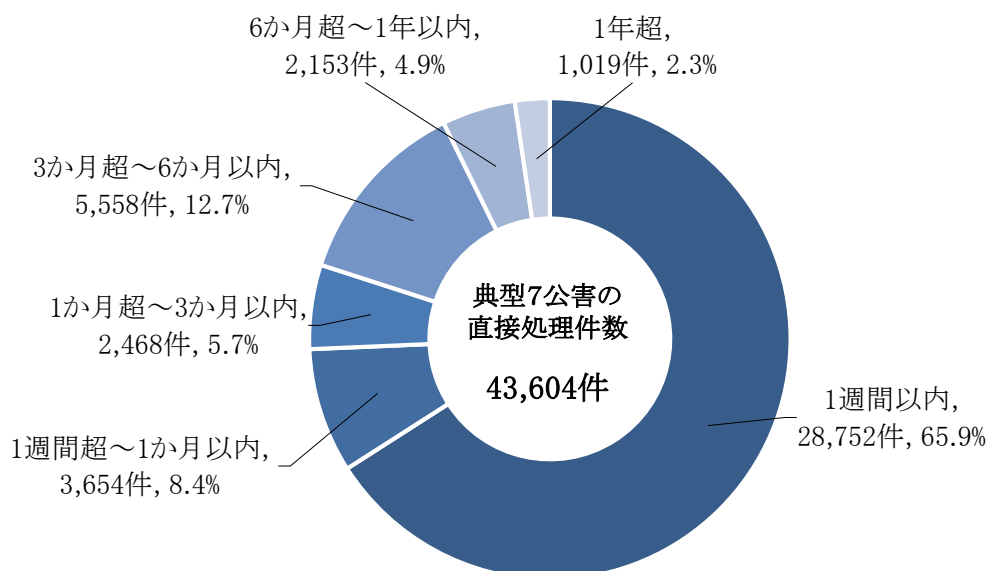
〈統計表第25表参照〉

典型7公害の直接処理件数（43,604件）について苦情の申立てから処理までに要した期間⁸をみると、「1週間以内」が28,752件（典型7公害の直接処理件数の65.9%）、「1週間超～1か月以内」が3,654件（同8.4%）、「1か月超～3か月以内」が2,468件（同5.7%）、「3か月超～6か月以内」が5,558件（同12.7%）、「6か月超～1年以内」が2,153件（同4.9%）、「1年超」が1,019件（同2.3%）となっている（図20、表10）。

公害の種類別にみると、「騒音」（14,692件のうち52.6%）及び「振動」（1,816件のうち47.5%）において1週間以内に直接処理した割合が他に比べて低くなっており、処理に長期間を要することが見てとれる（図21）。

平成20年度から平成30年度までの期間の典型7公害の直接処理件数の変化をみると、処理件数全体が21.3%減少、「1か月以内の処理」が26.0%減少となっているのに対して、「1か月超の処理」は3.6%減少にとどまっている（図22）。また、公害の種類別にみると「騒音」及び「振動」において「1か月超の処理件数」が増加となっている（図23）。

図20 苦情の処理に要した期間別典型7公害の直接処理件数の割合



⁸ 苦情処理に要した期間の区分は、「1週間以内」、「1週間超～1か月以内」、「1か月超～3か月以内」、「3か月超～6か月以内」、「6か月超～1年以内」及び「1年超」の6種類

図 2 1 公害の種類別、直接処理に要した期間の割合

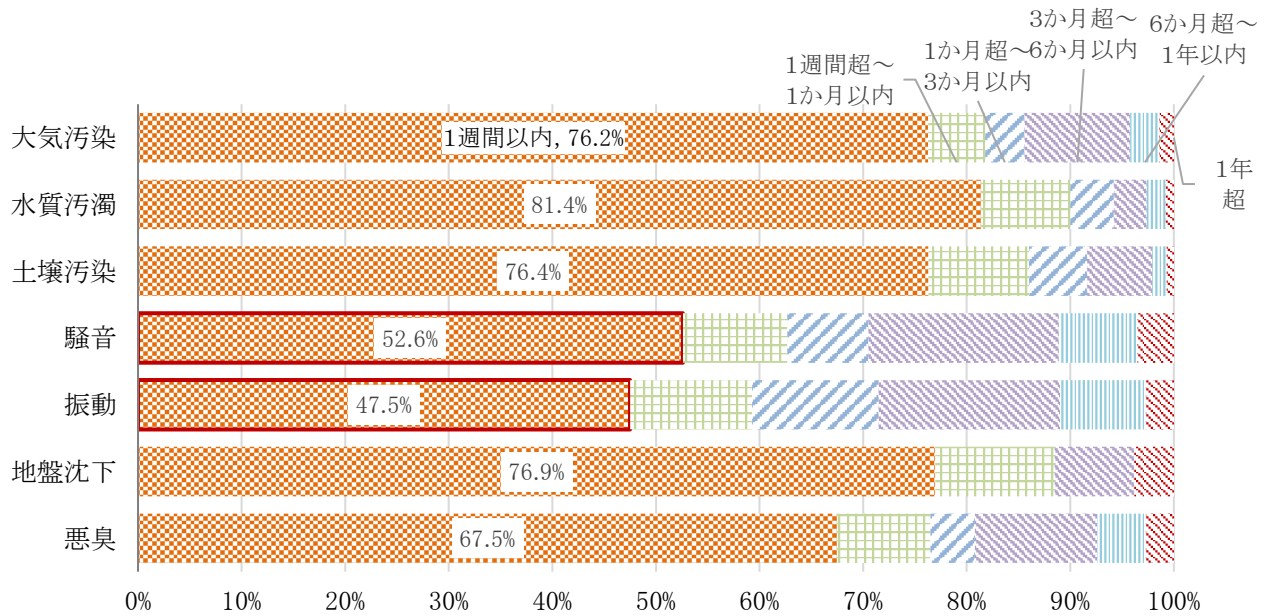


図 2 2 平成 30 年度の典型 7 公害の処理期間別直接処理件数の変化（平成 20 年度＝100）

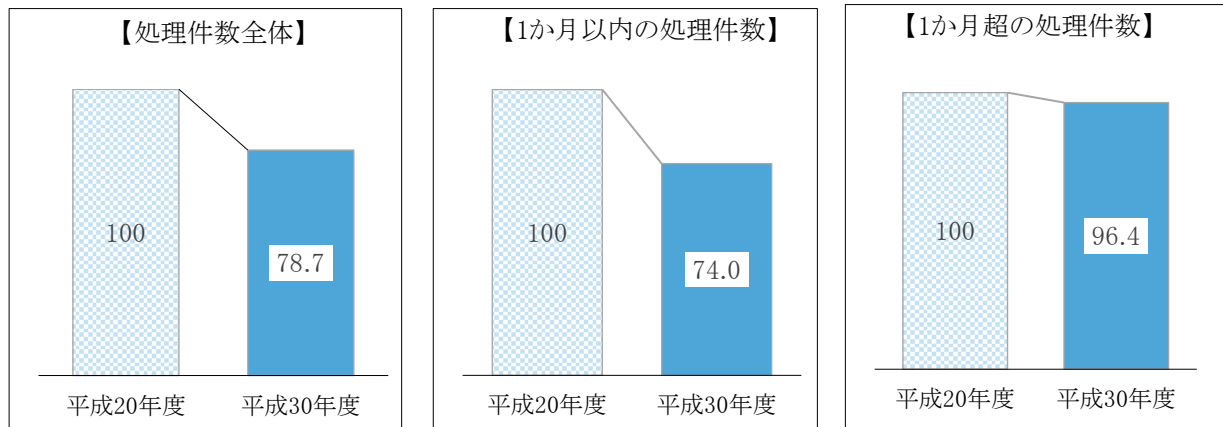


図 2 3 平成 30 年度の苦情処理期間別直接処理件数の増減（対平成 20 年度）

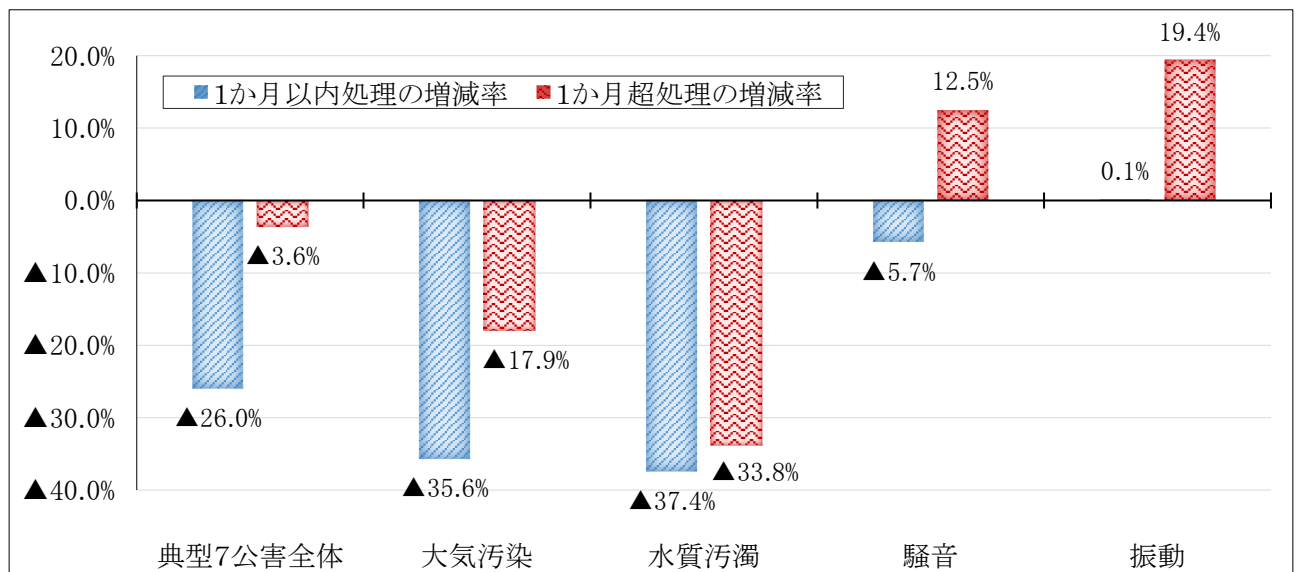


表 10 苦情の処理に要した期間別典型 7 公害の直接処理件数

(単位：件)

公害の種類		合 計	1 週間以内	1 週間超～ 1 か月以内	1 か月超～ 3 か月以内	3 か月超～ 6 か月以内	6 か月超～ 1 年以内	1 年超
直接 処理 件数	典型 7 公害	43,604	28,752	3,654	2,468	5,558	2,153	1,019
	大気汚染	13,337	10,168	728	507	1,362	380	192
	水質汚濁	5,029	4,093	432	209	163	93	39
	土壤汚染	144	110	14	8	9	2	1
	騒音	14,692	7,722	1,491	1,151	2,697	1,123	508
	低周波	196	93	37	14	29	15	8
	振動	1,816	862	215	221	318	151	49
	地盤沈下	26	20	3	0	2	0	1
	悪臭	8,560	5,777	771	372	1,007	404	229
構成 比 (%)	典型 7 公害	100.0	65.9	8.4	5.7	12.7	4.9	2.3
	大気汚染	100.0	76.2	5.5	3.8	10.2	2.8	1.4
	水質汚濁	100.0	81.4	8.6	4.2	3.2	1.8	0.8
	土壤汚染	100.0	76.4	9.7	5.6	6.3	1.4	0.7
	騒音	100.0	52.6	10.1	7.8	18.4	7.6	3.5
	低周波	100.0	47.4	18.9	7.1	14.8	7.7	4.1
	振動	100.0	47.5	11.8	12.2	17.5	8.3	2.7
	地盤沈下	100.0	76.9	11.5	0.0	7.7	0.0	3.8
	悪臭	100.0	67.5	9.0	4.3	11.8	4.7	2.7